

平成 27 年 10 月の解説（府県天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、大陸から日本付近に移動してきた高気圧の影響により、日照時間は東・西日本でかなり多く、北日本で多くなりました。また、大陸から冷涼な空気が流れ込み、東・西日本では気温が低くなりました。1 日は低気圧が発達しながら日本海を北東へ進み、西日本日本海側では大雨となったところがありました。その後、低気圧は発達しながら北東へ進み、2 日から 3 日はオホーツク海で猛烈に発達しました。このため、北日本を中心に大荒れの天気となりました。8 日から 9 日は、台風第 23 号から変わった低気圧が日本の東から千島近海へ北上し、北海道地方を中心に大荒れの天気となり、北海道オホーツク海側を中心に大雨となりました。

中旬も、日本付近は大陸から移動してきた高気圧に覆われることが多く、ほぼ全国的に日照時間が多く、降水量が少なくなり、特に北日本太平洋側と西日本でその傾向が顕著でした。ただし、11 日から 12 日は、低気圧が日本付近を通過し、全国的に天気が崩れました。低気圧の通過後は寒気が流れ込んだため、全国的に気温が低くなり、13 日には北海道地方では平地でも初雪となったところがありました。

下旬は、日本の北を低気圧が発達しながら通過することが多く、北日本では旬を通して寒気が流れ込みやすく低温となりました。本州付近は大陸から移動してきた高気圧に覆われることが多く、東日本太平洋側と西日本では日照時間がかなり多くなり、東日本太平洋側では降水量がかなり少くなりました。24 日から 25 日は、低気圧がオホーツク海を発達しながら東進し、北日本では大荒れの天気となったほか、東日本日本海側でも天気が崩れました。この低気圧に伴う強い寒気の影響で、北海道地方では 25 日は平地でも各地で雪となりました。

月平均気温は北日本で低くなりました。月降水量は東日本と西日本太平洋側でかなり少なくなり、7 か所で 10 月の降水量の少ない方からの 1 位の値を更新しました。月間日照時間は、北日本太平洋側と東・西日本でかなり多くなり、37 か所で 10 月の日照時間の多い方からの 1 位を更新しました。

【10 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 8 ポイント高い 92% で、明後日予報は例年値より 9 ポイント高い 90% でした。各地方の適中率では、明日予報は全ての地方で例年値より高くなり、特に四国地方、九州北部地方で 10～12 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率も全ての地方で例年値より高くなり、東日本から西日本の各地方で 8～13 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4 となり、全ての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.3 となり、全ての地方で例年値以下となりました。

^(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪になる日が次第に多くなり、北日本はもちろん東・西日本の山沿いや日本海側でも大雪となることもあります。

低気圧が発達しながら日本付近を通過した後、強い冬型の気圧配置となるときには、北日本を中心に暴風や暴風雪、高波、大雪、路面の凍結等により、鉄道や航空機、船舶の運休や欠航、道路の交通障害といった交通機関への大きな影響、また、停電などの被害が発生するおそれもあります。各地の气象台で発表される最新の気象情報や注意報、警報等に留意し事前の備えをお願いします。